

息子が小学校に入学したとき「なんか、みんな優しくない」と言いました。お友達同士の会話を聞いてみますと「おい、何してんだ」「おっせーな」「こんなこともできねえのかよ」「お前馬鹿か!」、……、絶句。小学1年生なのだから、ましてや男の子、そんなもんだろう、、、と思うことは、もちろんできます。きっと子供たちもこれから成長していくことでしょう。

ですが「思いやりのある言葉って、何だろう??」「どうしたら言えるようになるんだろう??」と、ふと考えました。個人の意見になりますが、小学校入学後も愛隣幼稚園のお友達は、優しい丁寧な言葉で話してくれます。愛隣幼稚園の先生は、楽しいイベントの時に、楽しかった思いをみんなと共有しながら、「お休みしているお友達が早く元気になるように」と参加できなかった子にも配慮し、言葉で園児に伝えておられました。放射線の影響でドングリを拾うことができない福島県の幼稚園に、毎年ドングリを園児が拾ってプレゼントされていますが「きれいなドングリを拾ったらプレゼント用、少し汚れているドングリは自分たち用・・・」と話す園児の声をくみ取り、大切に育てていただいていたように思います。決して、子ども同士を比べず、その子から広がる世界を大切にしていたように思います。「できないことがあれば、周りに教えてもらえばいい。自分ができたら、周りの子を助けてあげたらいい」そう言っていたような、やさしさに満たされた幼稚園生活でした。こんな当たり前のことを、大人の私も含めて、知らない子が多いのかもしれない。もしかしたらこれは、誰かに教えてもらわなければ、分からないことかもしれないと思いました。

息子は今年で三年生になりました。「おい、何してんだ」「お前馬鹿か!」聞こえてくる声は、少し少なくはなりました。ですが、大人が気づかないだけで、子供は想像以上に知っています、考えています。これから思春期を迎え、大人になるとき、今まで他人に向かっていたこれらの「刃物のような言葉」が、今度は自分に向けて放たれやしないか、……。他人と比べずこれからも、自分から広がる世界を、どうか大切に続けてもらいたいなど。もう少しで手が届かなくなる息子や息子の友達のお友達の背中を見て、祈るばかりです。幼稚園の先生へ、優しくつつみ込んでいただいた日々は今でも宝物で、息子はそこから、ゆっくりですが芽を出していますよ～^^